

NIES 藻類コレクションにおける広報活動

河地正伸*, 山口晴代

国立環境研究所微生物系統保存施設 〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2

Public relations in NIES algal culture collection

Masanobu Kawachi* and Haruyo Yamaguchi

Microbial Culture Collection, National Institute for Environmental Studies
16-2, Onogawa, Tsukuba, Ibaraki 305-8506, Japan

1. はじめに

国立環境研究所微生物系統保存施設は、環境研究に必要な藻類保存株の収集・保存・提供を目的として1983年に開設され、2002年以降はナショナルバイオリソースプロジェクトの藻類リソース中核機関として、環境研究のみならず、国内重要リソースの集約、ライフサイエンスに重要なモデル生物、ゲノム解析株、応用利用に有用な保存株等の収集とその付加情報整備等に取り組むことで、国内外の藻類研究を推進する重要な役割を担ってきた。現在では、多分野の研究に利用可能な多様な藻類および藻類に系統的に類縁のある微生物株の収集・保存・提供を行っている。

2. NIES 藻類コレクションの活動

微生物系統保存施設では、2019年9月の時点で882種2,964株が公開されており、2018年度には、国内から920株、国外から219株の利用があった。アオコ・赤潮対策、生態毒性試験等の環境研究、光合成や生理・代謝機能の解析、ゲノム解析、分類、系統進化といった基礎研究、バイオマス研究や生理活性物質の探索等の応用利用、そして教育利用など、さまざまな目的で利用されており、これらの培養株を利用した論文が毎年100報以上発表されている。新規寄託株は50~100株/年のペースで受け入れている。現在、公開株の約40%の株を凍結保存しているが、残りの株は継代培養で維持している。培養条件は多岐にわたり、培地の種類も多く、また種によって生育状況も大きく異なるため、独自に開発した管理データベースを活用しながら、細心の注意を払って維持管理を行っている。その

他、無菌株の拡充、動画や形態情報、文献情報、ゲノム情報等の整備を進めることで、品質向上や利用者にとって有用な情報整備に取り組んできた。

3. NIES 藻類コレクションの広報活動

広報活動を行う主な目的は、カルチャーコレクション(以後コレクション)の利用を拡大することにある。新たな利用者を開拓しつつ、すでに利用したことのある利用者に継続的に繰り返し利用してもらうためにも、効果的に広報活動を行う必要がある。またコレクションを利用する方々だけでなく、所属機関や関連省庁、そして社会にコレクションの活動を認知、理解していただき、支援を得るという視点も広報活動には必要だろう。

NIES藻類コレクション初期の広報活動では、冊子体の保存株リストを作って、学会や関連集会で展示を行う際に配付するといったことを行っていた。その後、ネット社会へ突入したことで、広報の手段も多様化してきた。迅速に、容易に保存株情報の更新が可能となり、ホームページを通じて、テキストだけでなく、写真や動画も提供できるようになった。そうなる株情報に付随するさまざまな情報を効率的に管理するためにデータベースが必要となり、結果として、われわれのコレクションでは、ホームページとも連携する機能を盛り込んだ、株情報・付加情報等を一元管理できるデータベースを整備することとなった。

さて現在の広報活動であるが、以前に比べると、その手段は格段に多様化している。NIES藻類コレクションでは、宣伝と情報発信の基盤はホームページと位置づけているが、即時性の高い情報の発信には、Twitter等のSNSを利用している。利用者が出版した論文の速報、コレクションの活動や展示などのイベン

*Corresponding author

E-mail: kawachi.masanobu@nies.go.jp

ト紹介など、利用者にとって利便性の高い情報を発信するように努めている (https://twitter.com/mcc_nies). この他、YouTubeで「藻類・プロティストムービー」を公開しており、藻類の多様な動きを紹介するとともに、ホームページの株情報と相互リンクさせている (<https://www.youtube.com/watch?v=D0DKVeADVUs&list=PLFTJILsZcVbiJY3ygYAPKeVOfDdOh9UEW>).

Twitterとは別に、われわれのコレクションではメールニュースを年3回、定期発行している。NIES株を使った論文やホームページのコンテンツ紹介、新規公開株やゲノム解析株の紹介、そしてイベント等のお知らせなど、まとまった内容の情報を盛り込む形で、現在、1,000名を超える方々に配信している。過去のメールニュースはホームページから確認できるようにしている (https://mcc.nies.go.jp/07information_j.html#mail_news).

そして昔も今も変わらずに行っているのは、研究集会等での展示活動やシンポジウム等での研究紹介といった広報活動である。NIES藻類コレクションでは、年に5~10件ほど、国内外の関連集会で展示やシンポジウム等の活動を行ってきた。その際には、パンフレットを配布して、研究者の生の声を聞きつつ、直接的な宣伝を行ってきた。こうした研究集会以外に、一般向けの広報活動も行っている。国立環境研究所で

毎年7月に行われる一般公開では、当施設も一般の方々に施設の一部を公開して、藻類の世界を楽しんでいただいたり、われわれの業務をわかりやすく紹介したりしている。たとえば今年は、展示に加えて、海藻おしば教室や電子顕微鏡観察などの体験型イベントといった盛りだくさんの展示や企画を行った。その他、年に20件程度の施設見学やインターンシップの受け入れ、出張講義などのアウトリーチ活動にも対応している。

広報活動を継続的に、日常的に行うには、広報・宣伝のための話のネタをいかに収集、確保しておくかが重要だろう。常日頃から、アンテナを張り巡らして、研究集会やイベント、展示活動の情報を収集、利用者の関心や藻類研究のトレンドを把握、コレクション利用者の成果論文にも目配りしておく必要がある。

以上、NIES藻類コレクションの広報活動や広報に関連する活動について紹介した。コレクションの業務は多岐にわたっており、広報に関しては、限られた時間、マンパワーのなかで、何とかその活動をこなしてきたというのが実情である。しかしながら、広報の重要性は明らかであり、利用者や一般の方々からのさまざまな意見や感想を聞く機会でもある。今後もコレクションの基本的で地道な業務を着実にこなしながら、コレクションの活動ともうまくリンクさせる形で、広報活動に取り組んでいきたいと考えている。